

目 次

第1章 音楽.....	4
《第1節 楽典基礎》.....	4
《第2節 楽典用語》.....	6
《第3節 音楽的教育用語》.....	7
第2章 造形.....	9
《第1節 子どもの造形》.....	9
《第2節 色彩》.....	10
《第3節 美の構成要素》.....	12
《第4節 描画・造形の材料》.....	12
《第5節 描画技法》.....	14
第3章 言語.....	16
《第1節 言語の発達と特徴》.....	16
《第2節 言葉の表現》.....	16
第4章 保育保育所保育指針に基づく保育内容の理解.....	19
《第1節 保育所保育に関する基本原則等》.....	19
《第2節 保育の計画》.....	23
《第3節 子どもの発達》.....	25
《第4節 保育のねらい及び内容》.....	27
《第5節 保育の記録と評価》.....	31
《第6節 子育て支援》.....	32
《第7節 職員の資質向上》.....	33

第5章 施設の役割と機能.....	35
《第1節 児童福祉施設》.....	35
《第2節 設備運営基準「総則」の重要規定》.....	43

※ 各四角の枠内の同じ記号(A、B、C・・・)の()には、同じ語句が入ります。

- * 弊社の許可なく、個人的なご利用以外の目的でこのPDF教材を印刷・複製することを禁止します。
また、ご自身でこのPDF教材を紙媒体に印刷し、弊社の許可なく頒布し、またはフリマアプリ・ネットオークション等に出品することは、弊社の知的財産権を著しく侵害する行為であり、これを固く禁止します。

第1章 音楽

《第1節 楽典基礎》

1	(A) は、音の絶対的な高さを示し、個々の音につけられた固有の名称を示す(「ハニホヘトイロハ」等)。(B) は、音階上での音の相対的な高さを示す(「ドレミファソラシド」)。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
2	(A) 唱法とは、長調の曲では主音を「ド」、短調の曲では主音を「ラ」として、楽譜を(B) で歌う唱法である。一方、(C) 唱法とは、どの調においても、ハ音を「ド」と歌うもので、ドレミを絶対的な音高の(D) として用いる唱法のことである。なお、わが国の学校教育においては、(A) 唱法が基本となっている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
3	変化記号とは、ある音に半音の変化を加えたり、元の高さに戻したりする機能をもっている記号のことである。 ＃(シャープ) = 「半音(A) する」(「嬰」) ♭(フラット) = 「半音(B) する」(「変」)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
4	「ド」と「レ」のように白鍵と白鍵の間に黒鍵が存在する場合を「(A)」、 「ミ」と「ファ」のように白鍵と白鍵の間に黒鍵が存在しない場合を「(B)」という。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
5	(A) とは、2つの音の間の高低関係のことであり、度であらわす。1度とは、同じ高さの音(「ド」と「ド」など)をいい、2度とは、隣同士の音(「ド」と「レ」など)をいう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
6	音階とは、1オクターブの中で、主音(音階の中で最も基本となる重要な音)を起点として、特定の秩序で配列した音列のことで、長音階と短音階がある。 長音階：全音－(A)－(B)－全音－(A)－全音－(B) 短音階：全音－(B)－(A)－全音－(B)－全音－(A)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7	調とは、主音に基づいてつくられる音階のことであり、長音階の調を(A)、短音階の調を(B)という。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

<p>8</p>	<p>主な長調の調号と主音</p>  <p>ハ長調 (A) ニ長調 (B) ホ長調 ロ長調</p>  <p>ヘ長調 変ロ長調 (C) 変イ長調 変ニ長調</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
<p>9</p>	<p>主な短調の調号と主音</p>  <p>イ短調 ホ短調 ロ短調 (A) 嬰ハ短調 嬰ト短調</p>  <p>ニ短調 (B) ハ短調 ヘ短調 (C)</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
<p>10</p>	<p>和音とは、高さの異なる2つ以上の音が同時に響くときの音のことをいい、音の重なり方によって、(A) と (B) がある。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
<p>11</p>	<p>コードネームとは、和音につけられた名前のことをいい、和音の基本となっている音 ((A)) がコードの基本名となる。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
<p>12</p>	<p>主なコードネーム</p>    	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>

第2章 造形

《第1節 子どもの造形》

1	子どもの描く表現は、一般的に、「なぐり描き期（ ^{さくが} 錯画期、乱画期）→（ A ）期 →（ B ）期 → 図式期 → 写実期」という段階を経て発達していく。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
2	なぐり描き期（ ^{さくが} 錯画期、乱画期）とは、1歳～2歳半頃をさし、手の運動に従って、無意味な線描き（（ A ））を繰り返す時期である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
3	（ A ）期とは、2歳～3歳半頃をさし、手と目が連動して動くことにより、円形等を描くようになる時期である。また、この時期には、画面上に描かれた形と具体的なイメージとが結びつき、形に名前や意味をつけるようになっていく。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
4	（ A ）期とは、3～5歳頃をさし、羅列的表現が多く、画面の位置関係（遠近、上下等）はできあがっていないが、何が描かれているか、一応見当のつくものが描けるようになる時期である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
5	（ A ）期には、円形（頭）からいきなり手や足が出て、胴体部分のない「（ B ）」とよばれる表現を行うようになる。「（ B ）」は、人の未分化な表現の一つである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
6	図式期（4～9歳頃）には、画面の中に位置関係をあらわす（ A ）があらわれる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7	（ A ）とは、外から見た形を描きながら、実際には見えない中にいる人やものが透けて見えるように描く表現のことをいう。 リュケ（Luquet, G. H.）は、このような表現は、子どもが見えたものだけでなく、知っていることをすべて表現しようとする（（ B ））によって生じるとした。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
8	（ A ）とは、展開図を描くように、中心から両側に開くように描く表現のことをいう。	<div data-bbox="724 1464 1048 1611" data-label="Image"> </div> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>